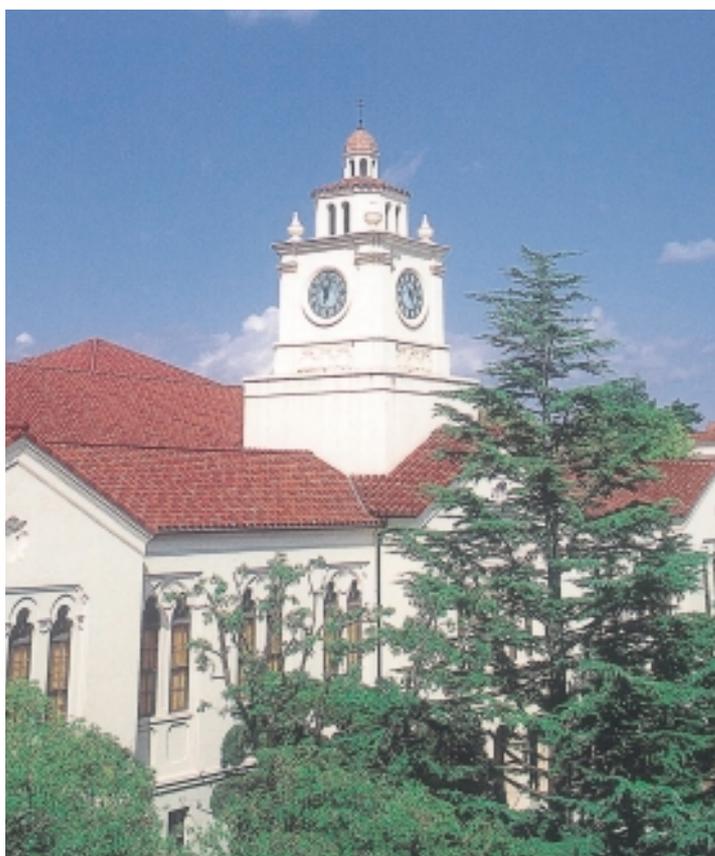


チャペル週報

さまざまな道に立って、眺めよ。
昔からの道に問いかけてみよ
どれが、幸いに至る道か、と。
その道を歩み、魂に安らぎを得よ。
(エレミヤ書 6 : 16 a)



春季宗教運動特集号
2005 5.16 ~ 5.20 No.5
関西学院宗教センター

チャペル・スケジュール

時間 10:35 ~ 11:05 場所 各学部チャペル

5月16日(月) 神 駒 木 亮 (神4)
社 キリスト教とわたし 藤田忠弘 (COE事務主任)
経 舟 木 讓 (宗教主事)
院 中 條 道 雄 (総合政策学部教授)

5月17日(火) 西宮上ヶ原キャンパス大学合同チャペル 10:20 ~ 11:20
「草創期の生徒たち」畑 道也 (院長)

於 中央講堂

神戸三田キャンパス大学合同チャペル 10:20 ~ 11:20
「神戸三田キャンパスと関西学院スピリット」: 松木真一 (理工学部宗教主事)

於 号館201号教室

5月18日(水) 西宮上ヶ原キャンパス大学合同チャペル 10:20 ~ 11:20
「キャンパスの風」田淵 結 (大学宗教主事)

於 中央講堂

神戸三田キャンパス大学合同チャペル 10:20 ~ 11:20
「草創期の生徒たち」畑 道也 (院長)

於 理工学部チャペル

5月19日(木) 神 文 禎 顥 (M2)
法・経済・商学部合同チャペル 於 中央講堂
English Chapel Richard J. Stinson (宣教師)

総 Mark Bell (総合政策学部A.L.E.)

5月20日(金) 神 神 田 健 次 (神学部教授)
社 学生会宗教総部によるチャペル
文・経済・商学部合同チャペル 於 中央講堂
音楽チャペル グリークラブ

理 山 本 圭 子 (文学部助教授)

ランバス早天祈祷会 午前8:20~8:40 於 ランバス記念礼拝堂
5月17日(火) 春季宗教運動のために 中 條 道 雄
5月18日(水) 春季宗教運動のために 永 田 雄次郎
5月20日(金) 文学部のために 阪 倉 篤 秀
総合政策学部早天祈祷会 毎木曜日 午前8:40~ 於 宗 教 主 事 室

春季宗教運動 - 大学キリスト教週間への招き -

中 條 道 雄

今年も4月に多くの新入生を迎えて新しい学年が始まって、早くも一月が経ちました。新入生の方々は新しい通学や下宿生活などにも少しずつ慣れてこられたでしょう。新たな学年に進級した人たちも勉学に、またクラブやサークル活動などにとそれぞれ新しい目標に向かって歩んでおられることでしょうか。皆さんは大学での学びを通して多くの知識や能力の習得に励まれますが、自分の学んでいる大学の特色について考えたことがあるでしょうか？ 関西学院は言うまでもなく「私立」の学校（私学）です。私学の特長は創設者の明白な目的・理念・ビジョンに基づいている点にあります。関学の教育の基本は「キリスト教主義」に基づいており、このことが関学の大きな特長であることは広く知られています。実際、入学式や卒業式は礼拝形式で行われ、各学部にはチャペルがあってチャペルアワーが守られています。またキリスト教について学ぶ科目が必修となっています。しかし、このことが皆さんの日常のキャンパスでの生活のなかで、また将来にわたってどのような意味を持つのかについてはあまり考えたことがなかった人が多いのではないのでしょうか？このような点について改めて考える機会を毎年春と秋に行われる「宗教運動」は与えてくれると思います。

皆さんはいろいろな目的と期待を持って関学に入学されたと思います。大学で学ぶ期間にしっかりと知識や技能を得ることはもちろん重要ですが、それだけでなく良き友や師との交わりを通して自分を見つめ、確固たる価値観・人生観を育成することが肝要であると思います。現代は「情報化社会」であるとも言われ巷には膨大な情報が満ち溢れています。マスコミや特に近年におけるインターネットを通しての情報の爆発的な増加は「情報洪水」とまで表現されるほどです。このような中であって多種多様な情報の価値・信頼性を判断しそれらを整理し正しい意思決定を行っていくためには信念に基づく価値観・人生観が必須となります。「春季宗教運動」の機会に行われるチャペルなどのプログラムに参加されて関学の建学の精神についての理解を深め、それを通して「自分を見つめなおす」時をもたれてはいかがでしょうか？

（総合政策学部教授・宗教活動委員会委員長）

“ Gain all you can, Save all you can, and Give all you can ! ”
(John Wesley)

畑 道 也

関西学院の創立者ウォルター・ラッセル・ランバス（1854-1921）は、北米の南メソジスト監督教会の宣教師でした。日本がようやく鎖国の眠りから覚めようとしていた19世紀の前半、北米には三つのメソジスト教会が存在していました。まず米国メソジスト監督教会、そして南北戦争を機にそこから分離した米国南メソジスト監督教会、それにカナダメソジスト教会です。19世紀は伝道の世紀ともいわれています。なかでも北米のメソジスト三教会は、熱い祈りをもって海外へ宣教師を派遣し、それぞれ日本にも宣教部を設けて教会、学校、奉仕活動を展開したのでした。

メソジスト教会の歴史は、英国国教会のジョン・ウエスレー（1703-1791）に指導されたオックスフォードの学生有志によるホーリークラブ（神聖クラブ）にまでさかのぼります。このサークルは、ウエスレーが母スザンナから受けた厳格で信仰的な生活規範を互いに守ることを目的とするサークルで、祈り、学業、奉仕などの厳しい日課を定め、互いに励まし合いつつ各々の信仰生活を確立していこうという運動でした。このホーリークラブのメンバーがあまりにも几帳面に日課を守り、自らの生活をきっちりと律していたことから、周りの人たちはある種の皮肉を込めて彼らにメソジスト（Methodist）
几帳面屋・きっちり派 というニックネームをつけました。

当時の英国では産業革命が進行中で農業社会から工業社会への移行期にあたり、農村を離れて都市や炭坑などに流れ込んだ貧困層がその日暮らしのすさんだ生活に苦しんでおり、非行、犯罪などの社会不安もつづいていました。こうした社会情勢の中で、厳格な信仰生活と幅広い奉仕に献身するメソジストたちは、注目すべき存在となっていたのです。

そして英国のブリストルの街で始められたウエスレーの野外説教は、毎回数千人の聴衆に熱烈に迎えられたため、彼は各地に野外説教の輪を拡げ、馬や徒歩で町々をめぐり、その日暮らしで荒んでいく人々の心に信仰の灯をともし、生活の規律改善を指導して歩き、貧しい人々のための学校や福祉施設

の設立に奔走しました。生涯を通じて彼が旅行した距離は約35万キロ、50年間に4万回を超える説教をしたと伝えられています。こうして地域ごとにメソジスト会という組織が作られ、その集会・礼拝施設は家のない人たちの宿泊所ともなり、そこに住む人たちは皆ひとつの家族として食事を共にしたのでした。またウエスレーたちは炭坑で働く貧しい坑夫の子供たちのために学校を建て、ホームレスの人たちのために無料の診療所を作りました。

そして1786年のアメリカ合衆国の独立によって、まずこの新大陸アメリカのメソジスト会が英国国教会から独立し、ウエスレー没後の1797年には英国のメソジスト会も独立したメソジスト教会となりました。

こうしてメソジスト教会はウエスレーの「世界はわが教区」との信念を受け継ぎ、まず北米大陸で飛躍的な展開をとげ、さらにアフリカやアジアの諸地域に向かって活発な伝道活動を展開していきました。その活動は単なるキリスト教の教理の伝道に止まらず、教育に福祉に、あるいはさまざまな社会活動にと、「キリストの愛に日々共に生きる運動」として展開されていったのでした。したがってランバスによる関西学院の創立も決して個人の企てによるものではなく、ウエスレーの流れを汲む教会のミッション（使命）を遂行するためであったのです。きっと学院の皆さんは、ウエスレーの提唱した「大いに獲得し、大いに節約し、大いに捧げなさい」という言葉と、学院のモットー「マスタリー・フォア・サービス」の意味が似かよっていることに気がつくられることでしょう。

関西学院創立の二年後にアメリカに帰国したランバスは、1910年にメソジスト教会の最高の職位である監督（ビショップ）に推挙され、神の福音の伝道に従事するビショップとして、中国、日本、韓国などアジア（6回）をはじめブラジル（6回）、アフリカ（2回）、メキシコ（16回）、キューバ（18回）、そしてベルギー、ポーランド、チェコ、フランスなどヨーロッパ、さらにはシベリアへと倦むことなく伝道活動に邁進し、1921年、さらなる世界伝道のためシベリアから中国、朝鮮を回り、日本を再訪して横浜で病没しました。その最後の言葉は、“I shall be constantly watching”でした。

（院長）

「キャンパスの風」

田 淵 結

「関西学院」「関西学院大学」という名前だけで、私たちの学校がキリスト教主義を建学の精神としていることをどれだけの人たちに理解してもらえるだろうか？たとえば「沖縄キリスト教学院」「茨城キリスト教学園」「国際基督教大学」、あるいは関西学院大学と早くから交流を持っているインドネシアの「サティヤワチャナキリスト教大学」のような校名であれば、その学校の理念は一般に理解されやすいことだろう。また関西学院のスクールモットー“Mastery for Service”、校歌『空の翼』、シンボルとなる新月の校章や大学のエンブレムなど、どれをとっても直接的にキリスト教を感じさせるものでもない。あの入学式に出席してはじめて、関西学院がキリスト教主義による学園であることを知った学生諸君も多かったのではないだろうか。

関西学院の持つキリスト教主義は、このように正面から大上段にそれを掲げ、自分たちの理念を強く訴えるという形をとっていない。むしろこのキャンパスに集い、その時間を過ごすうちに、本学のさまざまなシンボル、表現などの意味を受け止め、触れてゆくなかで、「キリスト教主義による理念」が学生諸君のものとなってゆくというあり方が展開されている。

スパニッシュ・ミッション・スタイルによるキャンパスデザイン、時を定めて響くチャイムの調べ、そこにも諸君が何かを感じるメッセージが込められている。スクールモットーであるMastery for Service、この言葉を聞いたことのない学生はいないだろう。そのServiceという言葉の意味とは何だろう。「使えること」「奉仕」「社会貢献」などと訳されるが、もともとその言葉は「神への奉仕」、つまり「礼拝」という意味を抜きには考えられない。このモットーの提唱者であった第4代院長であり初代学長となったカナダメソヂスト教会宣教師ベーツの生き方から見ても、彼はこの言葉に社会的意味と同時にキリスト教的メッセージを込めたことは当然であった。

さて、関西学院生にもっとも愛された校歌『空の翼』。作曲は関西学院の同窓である山田耕筰、作詞は山田の友人であった北原白秋。その近代日本を代表する二人の手による作品そのものもまた、直接的にはないが、そこに関西学院が掲げるキリスト教による理念、主義を「風に思う空の翼」と歌い始められる全曲を通じ表現されている。

昨年、学院創立者ランバス生誕150年と上ヶ原キャンパス開設75周年を記念して、上ヶ原キャンパスのシンボルである時計台二階ホール全面を用いて、関西学院キャンパスについての展示を行った。設計者ヴォーリズの働きを紹介する展示なかで、その中心となったものは時計台二階正面の窓をすべてを開け放ち、中央芝生から大阪梅田方面へと遠く開けてゆく「展望」だった。その窓辺から吹き入れてくるさわやかな風、その風を受けながら上ヶ原からはるかに広がる世界へと、学生諸君はやがて自らの翼を広げて羽ばたいてゆくことだろう。これこそが『空の翼』の意味を実感させる光景だが、そこで感じる風こそ、古く聖書の世界に生きた人たちが「神の息」として感じたものだった。その息に触れて私たちは、常に新しい生命に満たされ、力を感じ、「神の守りと支え」を直接に感じ取っていた。旧約ヘブル語、新約ギリシャ語、どちらも「風」という単語に「(神の)息」という意味があり、さらに「聖霊(Spirit)」とも訳される。キャンパスを吹き抜ける風を私たちが感じる時、私たちは常に新しい生命と力とを吹き込まれていることを。

5月、キリスト教ではクリスマスと並ぶ大きな祝祭の季節、ペンテコステ(聖霊降臨日)を迎える。新約使徒言行録の記事によると、復活したイエスはやがて天に昇り、その直後地上に残された弟子たちの上に「聖霊が降った」。それによって弟子たちが新しい力を与えられてキリスト教伝道のため、全世界に向けての活動を開始したことを記念する時。関西学院大学に集う学生みなさんが、大いに関西学院キャンパスに吹く風を感じ、それによってひとりびとりの未来への新しい展望、ビジョンが大きく開け、それに向かった歩みがはじまろうとしていることを実感して頂きたい。

(大学宗教主事)

ランバスチャペル・ヌーンコンサート

お昼休みのひととき、学生音楽団体によるミニコンサートをお楽しみください

5月16日(月) 関西学院大学混声合唱団エゴラド

5月17日(火) 関西学院グリークラブ

5月24日(火) 関西学院大学交響楽団(弦楽アンサンブル)

5月30日(月) 関西学院大学交響楽団(管楽アンサンブル)

6月9日(木) 関西学院聖歌隊

6月13日(月) 関西学院バロックアンサンブル

6月14日(火) 関西学院大学応援団総部吹奏楽部

6月16日(木) 関西学院大学ゴスペルクワイア "Power Of Voice"

いずれも12時50分~13時20分、ランバス記念礼拝堂(上ヶ原)にて

CDライブラリー

宗教センター事務室には教会音楽に関するCDを備えています。本学学生及び教職員であればどなたでも利用できますので、希望者は事務室までどうぞ。

教職員・学生有志による日曜礼拝

授業期間中の第2第4日曜日に一部英語を用いるバイリンガル形式で礼拝が行われています。どなたでも参加できますのでどうぞお越しください。

5月22日(日)

午前10時~11時 関西学院会館ベーツチャペル

使用済み切手収集にご協力ください

本学では、日本キリスト教海外医療協力会(JOCS)切手部の活動に協力し、使用済み切手の収集をしています。記念切手、外国切手だけでなく、通常切手も対象としています。宗教センター常設の回収箱にお届けください。

私たちがチャペルでオルガンの奏楽を担当しています

出野有沙美(社M2) 川村麻里子(法3) 小森あゆみ(社2)

遠藤友美賀(文M2) 三尾谷幸子(商3) 熊澤美里(文2)

中野友紀子(文M2) 大田詠子(文3) 柴田尚美(文2)

柳谷雄介(神M2) 新倉加奈子(社3) 北川千晴(文2)

原桃子(文4) 木村瑞貴(社3) 金谷すみれ(文2)

神田麻耶(総4) 廣部麻由子(社3) 高瀬万梨(経2)

荒木秀太(理4) 安井七緒子(文2) 久留島由子(総2)

帯川由布子(文3) 寺口あゆみ(社2) 下崎浩子(総2)

讃美歌を、出席者の皆さんが歌いやすいように弾こうとレッスンを重ねています。どうぞ、チャペルでは大きな声で讃美歌を歌ってください。